

公明は平和主義貫く

各地で終戦記念日街頭演説会

核軍縮へ対話をリード

友好条約40年 日中発展の歴史後世に

山口代表ら訴え

73回目の終戦記念日を迎えた15日、公明党は全国各地で街頭演説会を行い、先の大戦で犠牲となった全ての方々に哀悼の意を表し、不戦と平和への誓いを新たにしました。東京都豊島区の池袋駅東口で山口那津男代表は、「戦争を二度と起こしてはならないというの

は日本国民の誓いであり、世界の人々の共通の願いでなくてはならない」と強調。不戦の決意を貫くために、「憲法の平和主義の精神を堅持した上で、国際社会と連携しながら、平和を守り抜き、平和の礎を重ねていく」と訴えた。
＝関連記事2面



【東京】山口代表は、日中友好条約の締結から40周年の節目を迎えたことに、末永い安定した日中間の関係を築いていくということだ」と力説した上で、「先人の苦労に思いをはせつつ、その精神を今の世代が受け止め、後世に伝え残さないといけない」と訴えた。

平和構築へ「国際社会と連携を深めていく」と訴える山口代表(中央)と、竹谷(左から)太田、高木(陽)の各氏ら。15日、東京・池袋駅東口

核廃絶に向けた日本の取り組みでは、国連と協力して核保有国と非保有国の対話を促し、「賢人会議」の提言を核拡散防止条約(NPT)再検討会議に反映させることが重要だと指摘。「唯一の被爆国である日本が『核兵器のない世界』をめざし、現実的な核軍縮が一步でも進むよう力を尽くし、リーダーシップを発揮すべき

だ」と強調した。経済成長のほか、環境保護や貧困撲滅なども掲げる国連の持続可能な開発目標(SDGs)の推進に向けては、「世界の国々が、それぞれが発展段階に応じて

目標を共有し、実績を重ねなくてはならない」と指摘。日本の取り組みについては、戦後の経済成長に伴う課題を乗り越えてきた経験を活かす、「今後の経済成長に伴う課題を克服できるよう、世界各国と共に歩むことが重要だ」と語った。一方、太田昭宏全国議員団会議議長は、「平和の党・公明党として一人一人の多様性を尊重する姿勢を貫き、平和構築へ邁進していく」と力説した。

街頭演説会には、高木陽介党本部代表(衆院議員)、竹谷とし子同副代表(参院議員)らが出席した。